

12月17日(火)

神様の不動の愛

聖書朗読 出エジプト記 32章

すると主は仰せられた。「わたし自身がいっしょに行って、あなたを休ませよう。」出エジプト 33:14

モーセがシナイ山の山頂で神様と話しているうちに、イスラエルの子らはそわそわして、黄金の子牛を造り、それを拝みました。先ほどエジプトで奴隷だった彼らを救って下さった神様を忘れ、見たり触ったりできるモノが欲しかったのです。

彼らの立場に立って想像してみてください。神様がなさったとんでもない偉業を目の当たりにしたのに、窮地に立ったら何か面白くて派手なキラキラする安易なものに向かってしまいました。心当たりはあるでしょうか。今時は黄金の子牛こそ造らないものの、私たちはモノに気を逸らされ、偶像を作ります。インターネットへの依存、正義への同調圧力、社会的地位を得たいという野心などが、私たちの心の中で神様にとって代わることがよくあります。

でも、いいニュースがあります。イスラエルの子らは罪を犯してその報いを受けたときにも、神様に見捨てられませんでした。神様は彼らと一緒にい下さり、導き、寄り添ってくださいました。私たちが何回も気を逸らされたり、道に迷ったりしても、神様はいつも不動の愛をもって、私たちのためにいて下さいます。ですから、私たちは、神様を信頼し、安心することができます。神様の慈しみと赦しはいつでも私たちのそばにあります。私たちは神様より何を優先にしているのでしょうか。神様の道がベストと信じて、神様に集中する力を持てるように祈りましょう。

讚美歌 312 いくしみ深き

祈り 主よ、私たちはこの話に分自たちの姿が見えます。神様は愛に溢れていると分かっています。神様は私たちを導いて、ずっと私たちと一緒に居たいと私たちは知っています。私たちは神様に心を丸ごと捧げたいです。イエス様の御名によってお祈り申し上げます。アーメン。

カリフォルニア州 サクラメント / トレー・ジョンソン

12月18日(水)

不安を神様に捧げる

聖書朗読 申命記 31:1~8

主ご自身があなたの先に進まれる。主があなたとともにおられる。主はあなたを

見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。」

申命記 31:8

毎週、大きなトラックがごう音をたて私たちの近所に入ってきます。このトラックを所有する会社は私の家庭に必須なサービスを提供します。先の七日間に家の中で山積したゴミを回収してくれます。もしこのゴミを回収して貰えなければ、我が家は間もなく生活できない環境になってしまいます。毎週月曜日の朝、そのゴミが邪魔にならないように、道路のすみっこに出す努力をしています。

同様に、自分の心が乱れることが自分の負担にならないように神様に委ねることを、徹底していますか。『あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。』(ペテロ I 5:7) この激励をお覚えておいてください。『ゆだねる』と和訳されるギリシャ語の単語は、“その上に投げかける”を意味する強い単語です。私は物理的なゴミが撤去されるように努力していますが、私の喜びを奪う心配事や不安を定期的に神様に投げかけているでしょうか。

神様はご自分の平和を私たちに体験させるように、私たちの負担を撤去したがっています。神様は、私たちの重荷になるものを遠いところへ持って行くことがお出来るお方であり、それを進んでしたがつておられます。

讚美歌 519 わがきみイエスよ

祈り 天の父よ、魂を重くする不安の思考をあなたに捧げます。私の心配と恐怖を慈しみを持って撤去して下さってありがとうございます。あなたしか提供できない平和を教えてください。イエス様の御名によってお祈り申し上げます。アーメン。



コロラド州 オーロラ / ロバートP・リー

12月19日(木)

神様の勝利を頂いた民

聖書朗読 ヨシュア記6:1~16、20

正しい者たち。主にあって、喜び、楽しめ。すべて心の直ぐな人たちよ。喜びの声をあげよ。詩編32:11

神様の民の軍隊はエリコの町に近づいて行ったとき、強力な障害物に直面しました。その壁は厚くて頑丈で『勇士たち』によって守られていました。でも、神様はヨシュアに型にはまらない戦略をお与えになりました。六日間に渡り、祭司と民は一日一回、その町の周囲を回ります。民はその間、沈黙を守り、七日目に大声でときの声をあげるように命じられました。そのときの声は、万能の神様が約束した勝利を期待する信仰の叫びでした。そしてエリコの壁は崩壊しました。

クリスチャンとしての旅の途中、私たちはいつも障害物に遭遇しています。たまに他の人の反抗に遭うこともあります。 “ワガママ(我儘)都”、“ヨクバリ(欲張り)郊外”、“ショウシン(小心)村”など、自分が築いた城壁のある街にも遭遇します。

これらの城塞都市の周りを、主に信頼し、主の前にかしこんで静まり、絶えず祈りつつ回れば、主は私たちが勝利を得るよう助けてくださると約束されています。信仰によって、私たちも喜びのときの声をあげることができるのです。

聖歌 514 ひかりの高地に

祈り 主よ、私たちが毎日、あなたの姿を反映するような民になろうとする取り組みにあって、力をください。私たちが、いつ沈黙すべきか、いつ声を出すべきか、いつ黙想すべきか、いつ歓喜の叫びを上げるべきかをちゃんと見分けられるようにしてください。平和の君を通して、私たちに平和をお与えください。アーメン。

カリフォルニア州 マリブ /
カロリン・ハンター



12月20日(金)

あなたの行かれる所へ私も行きます

聖書朗読 ルツ記1:10~22

ルツは言った。「あなたを捨て、あなたから別れて帰るように、私にしむけないでください。あなたの行かれる所へ私も行き、あなたの住まれる所に私も住みます。あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。

ルツ1:16

旧約聖書の長い文献の間に挟まれて、短いルツ記はたまに見逃されてしまいそうです。それは喜怒哀楽に富んだとても良い話なので、残念です。

冒頭は陽気な印象ですが、間もなく唐突な悲劇が起こります。主人公のナオミ、ルツ、オルパの夫たちはいきなり死んで、女性たちは守る人を亡くし、残されてしまいます。わずかな希望を持って、ナオミはベツレヘムの実家に戻ることにして、ルツとオルパにモアブの自分たちの実家に戻ることを勧めます。オルパは実家に戻りましたが、ルツは姑のナオミと一緒に居ると決心しました。16~17節のルツの言葉は忠実と献身を表す名言です。

話は続き、ルツはナオミと一緒にベツレヘムに旅して、ボアズという男性と再婚して、オベデという息子を生まれました。オベデは大人になり、エッサイの父となり、ダビデ王の祖父になりました。そしてそればかりではありません。ルツはボアズとオベデと一緒にイエス様の家系に載っています。なんという凄い話でしょう！神様は忠実であり、見たり想像したりすることもできないように、人々を使われる計画があることを私たちに思い出させます。

聖歌 581 したいまつる主の

祈り 父よ、忠実について大事な教訓を教えるルツの話に感謝します。毎日、あなたとあなたの御子に忠実を尽くすことができるように助けてください。イエス様の御名によって、お祈りします。アーメン。

サウス・カロライナ州 アーモ / フィリップ・アイヒマン

12月21日(土)

ハンナの祈り

聖書朗読 サムエル記 第一 1:1~10

ハンナの心は痛んでいた。彼女は主に祈って、激しく泣いた。
サムエル I 1:10

ハンナは古代イスラエルに住む信心深い女性でしたが、不妊だったことで苦しんでいました。彼女の社会では、女性の価値は産む子供(主に息子)の数に結び付いていました。ハンナの夫が本当に彼女を愛していたにしても、彼女は悲しみに満ちていました。彼女は息子を授かるように必死でした。

毎年のシロの神殿への参礼の旅で、ハンナは悲しみに圧倒されました。家族の他のメンバーは儀式に参加している間、ハンナは黙祷しながら心に溜まった気持ちを注ぎ出していました。唇を動かさず、涙を流しましたが、音はしませんでした。神様はハンナの心からの感情的な祈りに耳を傾けました。

ハンナは赤ちゃんを“神は聞いてくださった”という意味のサムエルと名付けました。彼女の私利私欲のない心と、エリの指導によって、サムエルは神の人になりました。彼はその時代の“祈りの戦士”となり、二人のイスラエル王の即位を宣言し、大祭司・士師として神様に仕えました。ハンナの祈りは叶えられ、彼女は忠実に応答しました。神様は私たちの心が傷つくのを見て分かっています。あなたの痛みを完全な忠誠心を持って神様に捧げ、神様が究極の計画をお立てになっていること、何がベストかを知っていることを信じてください。そうすれば、私たちは神様の善き献身的な愛に安らぐことができます。

讚美歌 499 みたまよ 降りて

祈り 主よ、私の最も深い欲望を注ぎ出すことを助けて、私の弱みを救っていただくよう、あなたの強さに呼びかけることができますように。私の心を開いて、あなたの御霊の導きを受けることができるようにしてください。私をかたどって、あなたの御子のようにならせてください。イエス様の御名によって。アーメン。

アリゾナ州 フィーニックス / ジョセリン・ブラウン

12月22日(日)

神様との約束

聖書朗読 サムエル記 第一 13:2~15

サウルは答えた。「民が私から離れ去って行こうとし、また、あなたも定められた日にお見えにならず、ペリシテ人がミクマスに集まったのを見たからです。今にもペリシテ人がギルガルの私のところに下って来ようとしているのに、私は、まだ主に嘆願していないと考え、思い切って全焼のいけにえをささげたのです。」サムエル I 13:11~12

主よ、私を辛抱強い人にしてください。直ちに！ 私たちの世界は腕時計、時計、タイマー、暦などに支配されているように見えます。もし遅刻してしまえば、不遜、予定作りの甘さ、人に対する無関心などと解釈され兼ねません。

では、私たちはどうやって神様のタイミングを理解するべきでしょうか。

サウルみたいに、私たちも恐怖、自信の無さ、不安、無鉄砲になる時があります。私たちの人生に、神様に介入して欲しいですが、自分が許容する範囲にそれを限りたいのです。行動に出るのがアメリカ式です。でも、モーセ(80年間)、イスラエルの子ら(40年間)、使徒パウロ、それにイエス様(30年間)からも、辛抱するという教訓を学びましょう。

私たちの挑戦は、日常の試練と苦難と取り組みながら神様に信頼することです。イエス様はラザロの墓に“間に合って”到着しました。神様は雀にも百合にも必要なものを与えます。(編注:マタイ 5:26~30)きつとご自分の息子・娘たちである私たちに、その日に十分なパンと慈しみを提供して下さるでしょう。私たちは神様に頼ることができるのです。

聖歌 691 風はあれくるう

祈り 主よ、私たちと一緒にいて下さり、人生に慈しみと恵みを与えて下さり、ありがとうございます。私たちの人生に対するあなたのご意志の先に駆け出さずに、あなたのタイミングをずっと信用できますように。イエス様の聖なる名前によって祈ります。アーメン。

テキサス州 グランベリー / ジェイン・エヴァンズ